

消 息

谷本寛治先生のご定年退職にあたって

谷本寛治先生はめでたく古稀を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年 3 月末日をもって退職されました。先生のご退職にあたり、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

谷本先生は 1955 年生まれで、1979 年 3 月大阪市立大学（現在の大阪公立大学）商学部を卒業され、神戸大学大学院経営学研究科修士課程に進学され、1984 年 3 月博士課程を修了されました。その後、奈良産業大学経済学部において本格的な研究者の道をスタートさせ、和歌山大学経済学部教授を経て 1997 年 4 月一橋大学商学部教授（2000 年以降、大学院商学研究科教授）に着任されました。早稲田大学には 2012 年 4 月商学学術院教授として嘱任されました。「三商大」と呼ばれる大阪市立大学、神戸大学、一橋大学を経て本学部に着任され、商学を極められた先生といえます。この間、1989 年には神戸大学から経営学博士の学位を取得され、2019 年には研究・教育への貢献により一橋大学から名誉教授の称号を贈呈されています。

先生は、企業システム論、企業と社会、サステナビリティ経営、ソーシャル・ビジネスなどを専門とされています。著書や論文は多数に上り、旺盛な研究生活を送られてきましたが、特筆すべきは企業と社会あるいは CSR（Corporate Social Responsibility）の分野において我が国を代表する研究者であることです。CSR を経営学、経済学、社会学、政治学など多様な領域を包摂する分野ととらえ、企業システムを市場や社会との関係から研究されています。また、ソーシャル・イノベーションの視点からビジネスを通じた社会問題の解決にも取り込んでこられました。社会・経済システム学会会長（2009 年から 2013 年）、「企業と社会フォーラム」（JFBS）会長（2011 年から 2021 年）および名誉会長（2025 年以降）として学界をリードするとともに、特定非営利活動法人ソーシャル・イノベーション・ジャパン代表理事（2005 年から 2009 年）として研究の社会実装にも取り組まれました。先生のご活躍は国内にとどまりません。研究の国際

発信や国際的な研究ネットワークの形成、各種の国際ジャーナルの編集にも当たられています。その証左として、Free University of Berlin 客員教授（2010 年、2014 年、2017 年）、National Taipei University 客員教授（2016 年以降現在に至る）、Cologne Business School 客員教授（2017 年）、Parahyangan Catholic University 客員教授（2020 年）として招聘され、国際的にも認知された研究者の一人です。2018 年には先生の長年の研究への貢献に対して、CSR Award（8th International Conference on Sustainability and Responsibility）が授与されました。その他、経済産業省などの審議会委員、公認会計士試験委員も歴任されています。谷本先生の教育・研究上の功績について詳細な紹介は藤田誠先生による消息をご参照ください。

先生は教育熱心な方でもありました。学部ゼミでは、フィールドワークを含むプロジェクト研究にもとづく早稲田祭での研究発表、国立台北大学との Joint Workshop、神戸大学・大阪公立大学・早稲田大学間の学生討論会、企業とのステイクホルダー・ミーティングなどの活動を展開してきました。また、若い研究者のキャリア形成につなげるべく、『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法—国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ』（中央経済社、2021 年）を出版されています。

私は一時期、大阪市立大学商学部にて在職しており、同大学は先生との共通の話題でした。また、先生は毎年 9 月から 11 月（第 3 クォーター）の期間、国立台北大学で客員教授として授業を担当されました。出張にあたって学部長としてサインを求められ、その際「クォーター制は研究教育にいいね」と話されていたことが印象に残っています。台湾でのご経験は『経営学者の台湾』（クロスメディア・パブリッシング、2025 年）にエッセイとしてまとめられています。

ご退職後も先生の研究はさらに深化するものと思われます。古稀とは思えないほど若々しい先生ですが、今後ともご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の早稲田大学とりわけ商学部に対する多大なご貢献に心から感謝を申し上げます。谷本先生、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会長
横山 将義